

海外研修旅行記

…フランス 10 日間の旅…

日本工業大学 高宮 弥

はじめに

私は今回海外旅行の機会をいただいて、フランスに行ってきました。初めての海外旅行で不安な気持ちが大きかったのですが、毎日たくさんの建築を見に行くことができ、とても充実した日々を過ごすことができました。この旅行記では訪れた建築や旅でのエピソードなどをお話しできたらと思います。

旅行スケジュール

3/29 23:10 TokyoHND…3/30 13:40 ParisCDG

Day1. モン・サン・ミッシェル

Day2. レンヌの街並み

Day3. 海の街サン＝マロ

Day4. ブルストゥコメルス etc.

Day5. パリの観光地巡り

Day6. ルーブル美術館 etc.

Day7. シネマテークフランセ etc.

Day8. コルビュジェの建築巡り

Day9. ポンピドゥーセンター etc.

Day10. ケブランリ美術館 etc.

4/10 09:00 ParisCDG…4/11 06:00 TokyoHND

Day1.

□モン・サン・ミッシェル

モン・サン・ミッシェルは世界遺産の一つで、四方を海に囲まれ、岩山の上に住宅やお店、礼拝堂や修道院がある街です。私が滞在していたレンヌからは直通のバスが出ていて、1時間ほどでバス停まで着きました！しかし、バス停からモンサンミッシェルまでがとても遠くて、40~50分ほど歩いてやっと到着しました。しかも雨風が強かったので、たどり着くまでにびしょ濡れになってしまいました。。徐々に雨が止んで晴れてきてくれたのですが、帰る時にちょうど雨が降ってしまって、バスに乗る頃にはまたずぶ濡れになってしまいました（笑）。

モン・サン・ミッシェルは礼拝堂・修道院までの道のりに商店街があり、それらをぐるっと囲むように住宅が建ち並んでいます。世界遺産というと厳重に管理されているイメージがあったので、商店街の賑やかな雰囲気には驚きました。すぐに修道院まで訪れるつもりでしたが、住宅街がとっても面白くて3時間ほど歩いてやっと修道院へ向かいました（笑）。礼拝堂と修道院はもちろんのこと、島内のいたるところで魅力的な場所を見つけることができ、頑張って歩いてよかったと思える1日になりました。不安定な天気でしたが、色々な表情のモン・サン・ミッシェルを見ることができて大満足です◎



△朝の到着時のようす：雨風が強く台風のような天気でした



△商店街のようす：細い路地に背の高い建物が立ち並びます



△住宅のテラス席：開放的で落ち着く空間が素敵です



△いろいろな小道が迷路のようになっていますワクワクします



△教会内の木製アーチ：圧迫感のない柔らかい空間でした



△おしゃれなかもめ：たくさんの仲間と飛び回っていました



△帰り道、雨上がり：澄んだ空と水たまりの反射が綺麗です



△夕食のガレット：大きめです。パリパリしています。

この日の夜は、レンヌの郷土料理であるガレット（＝そば粉のクレープ）をタご飯にいただきました（8枚目の写真）。実はこのガレット、レンヌが土壌環境に恵まれなかったことによって生まれたのだそうです。主食である小麦を育てることができなかつたため、代わりにそば粉を栽培したことがきっかけでした。また、葡萄も不作だったため代わりにりんごをたくさん栽培しました。それらを加工したシードルというお酒を作り、今ではそれが特産品となっています。レンヌの、「たとえ求められているものや標準的なものとは違って、この場所でできる最大限のことをして上手に暮らしていく」という姿勢には、学ぶことが多いように感じます。

Day2.

□レンヌ街歩き

今回の旅では、レンヌという街に私の従姉が住んでいるため3日間でホームステイさせてもらいました。レンヌへはパリからTGVか飛行機で2時間ほどで着きます。2日目は仕事の合間に街の案内をしてもらいました。

レンヌでは毎週土曜日に大規模なマルシェが行われています。野菜などの食料品の他、切り花や鉢植え、洋服やハンドメイドのアクセサリなどたくさんのお店があって賑わっていました。その後は従姉の職場の一つである書道教室を見学してもらいました。私は書道があまり得意ではないのですが、生徒の皆さんがとっても達筆でびっくりしました。現在フランスでは日本の文化が注目されているようで、日本語を学ぶ人が増えていたり、浮世絵を購入して家に飾ったりと日本に関する色々なものが人気なのだそうです。アニメや漫画など現代の文化に加え、伝統的なものにも興味を持って積極的に挑戦してくださっていることにとても感動しました。

レンヌには現在の市街地の他に旧市街地があります。実は400年前に大火事が起きてしまって、その際にほとんどの建物が燃えてしまったのだそうです。旧市街地は火事の被害を受けなかった場所で、当時の街並みが保全されています。市街地では伝統的な石造りの建物の他、新築の施設やマンションも多く、色々な表情のある素敵な街でした。



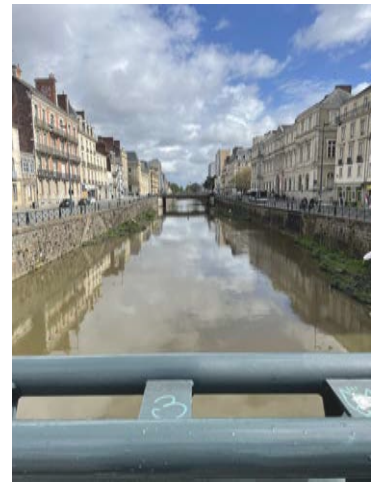
△マルシェで出品されていた
かわいい観葉植物



△書道教室のようす
皆さんとてもお上手です



△旧市街地に残る城壁と門



△現市街地は川を挟んで石造りの
歴史的な建物が立ち並びます

Day3.

□サン＝マロ

ホームステイ最終日はサン＝マロという街に連れて行ってもらいました。港町のためたくさんの船が停泊しており、綺麗に残った城壁は遊歩道のようにも使われています。日曜日ということもあり街はとても賑わっていました。商店街はレンヌやモン・サン・ミッシェルよりも規模が大きく、ブランドを扱うお店もあり落ち着いた雰囲気を感じます。城壁からの眺めもとても綺麗で、歴史を感じる佇まいも素敵な街でした。



△港とサン＝マロの街：海に沿うように城壁と建物が立ち並び



△城壁の上は遊歩道に



△上品な雰囲気の商店街

Day4.

□ブルスドゥコメルス (BOURSE DE COMMERCE) / 安藤忠雄

2021年にオープンしたばかりの現代美術館で、フランスの実業家フランソワ・ピノーの個人コレクションが展示されています。この建物はもともと18世紀に穀物の取引所として使用されていましたが、改修工事が行われ美術館として生まれ変わりました。既存の円形の建物をそのまま残し、その内側に同じく円形のコンクリート壁がつけられています。歴史ある建物とコンクリートという相反するものどうしなのに違和感が無く、お互いが引き立て合うようなとても素敵な空間です。またこの壁に沿って階段が設置されていて、その動線がとても美しく何度も行き来してしまいました。

10ヶ所の展示室、地下の講堂、最上階にはレストランが入っています。3階ではなんとお水が無料で飲めるスペースがあって、おかわりも自由なんです！ここで私がウォーターサーバーのボタンがわからず戸惑ってしまって、そのときパリジェンヌが優しくここだよと教えてくれたことが嬉しくてよく覚えています。レストランに入らなくても座ってゆっくり休憩ができ、リラックスして美術鑑賞ができました。

□フォーラム・デ・アール (Forum des Halles) / パトリック・ベルジェ建築事務所

シャトレ・レ・アール駅に直結している大型のショッピングモールです。様々な路線が交わる大きな駅なのでたくさんの方が集まっています。この建築の一番の特徴はこの大きな屋根です(3,4枚目の写真)。架構が格好良く、存在感が強いので圧迫感があるのではと思っていましたが、想像していたよりも軽やかな印象で、さらさら日光が反射している姿はとても綺麗でした。光や風が通って駅とお店を緩やかに一体化していて、とても心地よい空間です。



△RC壁に沿った階段：なめらかなで綺麗な動線です

△既存の建物と新しいRCが溶け合った美しさがあります

△1枚ずつ異なる曲線と傾きで生き物のようにも見えます

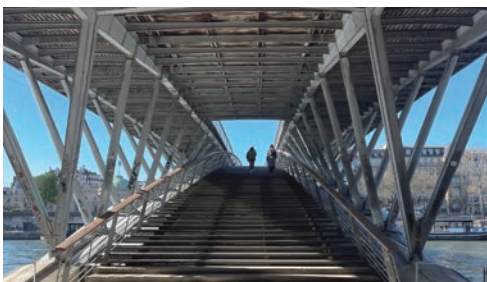
△光が反射して軽やかな印象を与えます

Day5.

□パリの観光地巡り

この日はパリの観光名所を中心に訪れました。いろいろな場所に行ったので、写真と一緒に紹介していきます。

その前に、素敵な歩道橋を見つけたので紹介します！パリにはセーヌ川を越えるための歩道橋がいくつかあり、こちらはその一つです。中心で動線が上下に2つに分かれています。階段の隙間からセーヌ川が見えるのは少しこわかったのですが、開放的でとても素敵な歩道橋でした！



△橋の架構がみえて格好良いです



△上側はベンチで休憩できるよう



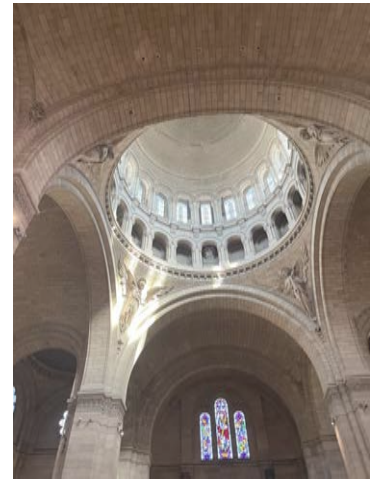
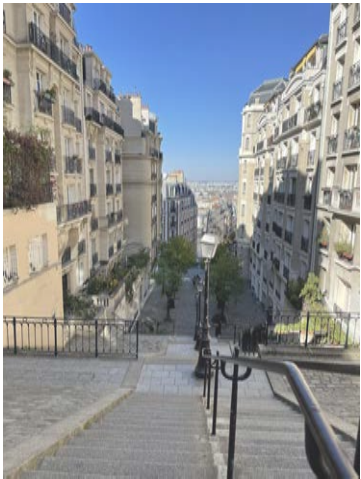
△全体形

□オルセー美術館



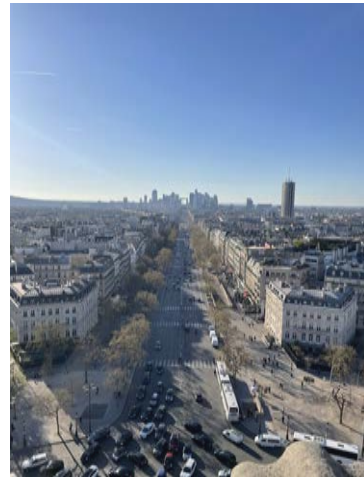
△かつて駅だった建物を美術館に改修しています。天井のガラスがとても綺麗で、装飾も派手すぎず上品な印象でした。佇まいが凛としていて格好良いです。ちなみに駅舎だった当時は腕時計などが普及していなかったため、大きな時計は電車の発車時刻を知らせるといふ重要な役割を担っていたそうです。ここでは落ち穂拾いやゴッホの自画像などの美術作品を見ることができました。

□モンマルトルの街並み



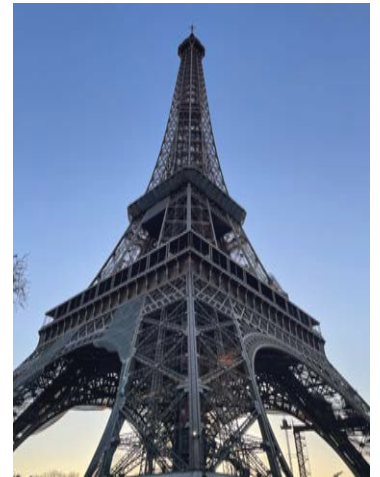
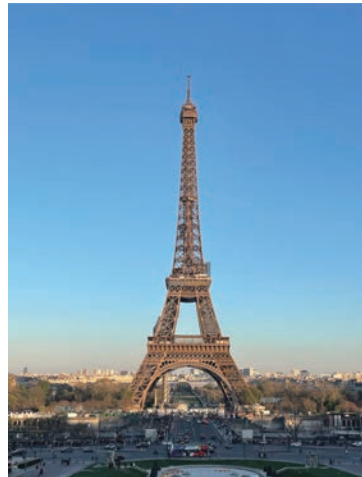
△モンマルトルはパリで最も標高の高い街で、坂道やパリを一望できる場所も多いです。教会の近くには画家が集まる広場もあり、即興で似顔絵を書いたり絵を販売したりと賑わっていました。私は絵を買ったことが無かったのですが、2枚目の写真の方がパリの風景をとても可愛く描いていらっしやっただけで記念に購入させていただきました！現在素敵な額縁を探し中です。

□凱旋門



△想像していたより大きくて上るのが大変でした。屋上からの眺めはとてもきれいで、様々な方向からパリの街並みを間近で見ることができます。

□エッフェル塔



△一度は見てみたかったエッフェル塔！流石はパリの顔、存在感がとても大きかったです。夕暮れ時だったので、色々な表情のエッフェル塔を見ることができました。

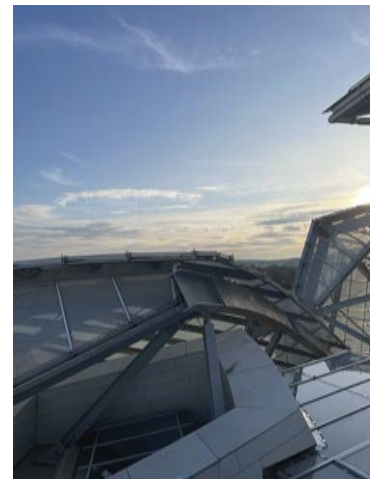
Day6.-Day10.

□ルーブル美術館



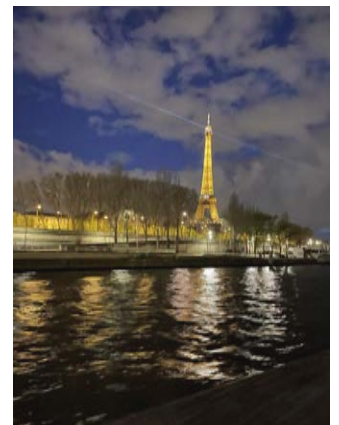
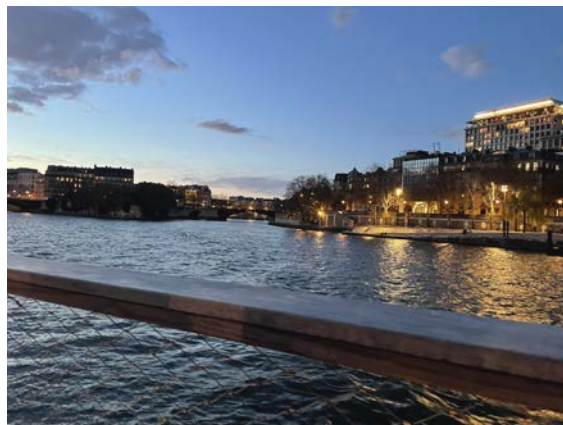
△美術館といえばまず最初にルーブル美術館が思いつくほど、有名な美術館ですよ。規模が大き過ぎて全ての美術作品を観るのに1週間かかるといわれています。とにかく広くて、どこもかしこも美術品だらけでこんな体験は初めてでした。また、美術作品の前で模写をしている人たちがたくさんいたことにとっても驚きました。まるで広場にいるかのような振る舞いをしていて、美術館が日常の身近な存在であることが伝わってきます。装飾も展示スペースによって異なっていて、飽きずに変化を感じながら楽しめました。

□フォンドシオン・ルイビトン / フランク・ゲーリー



△ぐるとカーブしたガラスの壁が覆う、大迫力の美術館です。写真を見た時から気になっていましたが、実物は想像以上にインパクトが大きく、こんな建築がつかれるんだ、と衝撃を受けました。しかもこの美術館は屋上にとっても心地の良いテラスがあるんです！さらに、展示室→ファサードの見える空間→展示室→屋上テラスといった具合に美術鑑賞をしながらファサードがもたらす空間を堪能できます。外壁だけのデザインではなく、ファサードが美術鑑賞時にも関わっている点は大きな特徴だと思います。テラスが素敵すぎたので2時間くらいずっと居ましたが全く飽きませんでした。とても格好良くて、お気に入りの建築になりました。

□セーヌ川クルーズ



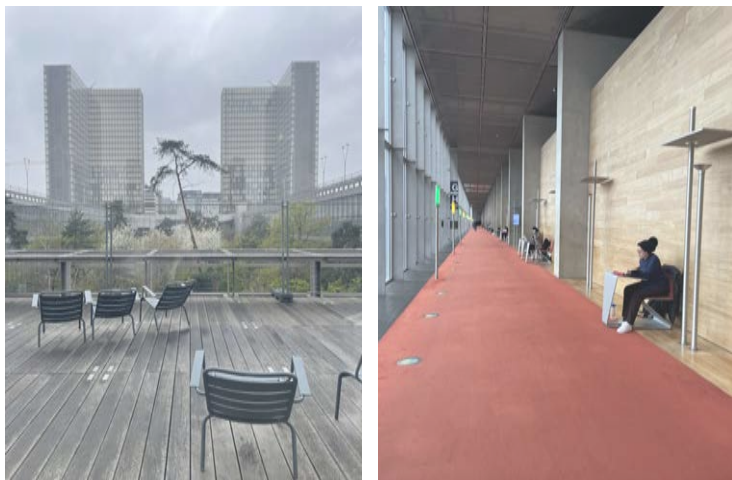
△パリではクルーズ船に乗って観光地を巡るツアーが毎日十数本運航しています。夕暮れ時を狙って行ったので、夕陽が差し込む景色と夜景どちらも見ることができました。旅行中はずっと歩いていたので、座りながらゆっくり景色を楽しむのもとてもよかったです◎

□アトリエワンの公営集合住宅



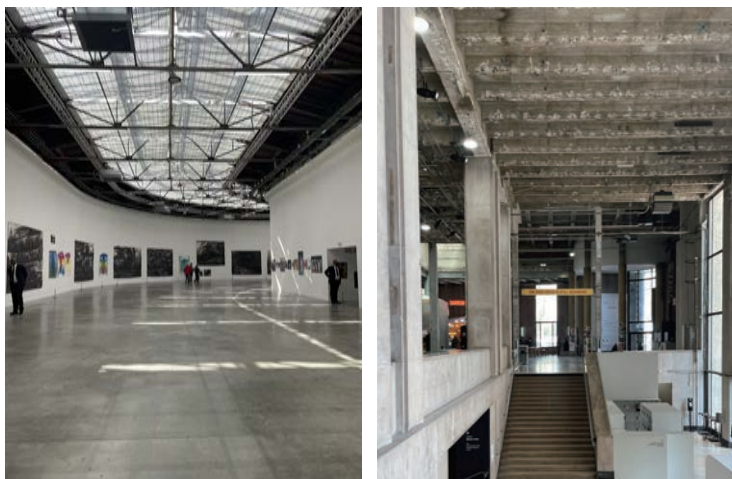
△ポコポコしたテラスがかわいらしいファサードです。車通りも少なく静かな場所なので、テラスでつくりだり下の階の人と話したりと積極的なコミュニティが垣間見えました。上のテラスが下のテラスの屋根になったり、住民の住まいが滲み出ている、豊かな暮らしの一面が表出していてとても素敵でした。

□フランス国立図書館



△大きな本棚のような外観と、中央の広場が特徴的な図書館です。廊下には読書や勉強のできる席、外にはテラス席も設けられ、個々が過ごしたい場所を自由に選べます。公共的な建物で座って過ごせるというのはとても居心地が良さそうです。

□パレ・ド・トーキョー



△あまり手を加えていないような内観で、無骨さを感じます。現代美術の作品ととても相性が良い印象で、美術館でありながら日光が入り込んでいるのも思い切ったデザインだと感じました。

□パリ市裁判所 / レンゾ・ピアノ



△室内に入れるのか心配でしたが、建築を見させてくださいとお伝えしたところ快くOKしていただきました！内装は白色や木を用いた暖かみのある空間で、洗練された印象です。法服を着た裁判官の人たちが仲良く話しながら歩いたり、裁判所ということをお忘れてしまうほど開放的な場所でした。

□シネマテークフランセ / フランク・ゲーリー



△フォンダシオン・ルイブトンにつながるデザインが感じられます。曲線を用いた様々な動きが、コンパクトでありながら広がりのある空間の印象を与えています。デザイン性が強いのに、とても落ち着きのある場所でした。

□アラブ世界研究所



△特殊なパネルが一面に使われたインパクトの大きい建物です。どうやらこの歯車たちは開閉ができるようで、よく見ると一つ一つ開き具合が異なっていました！

Day8.

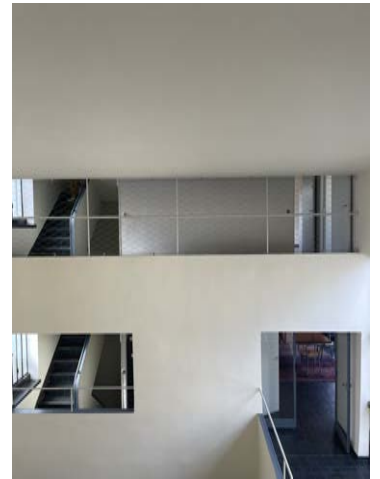
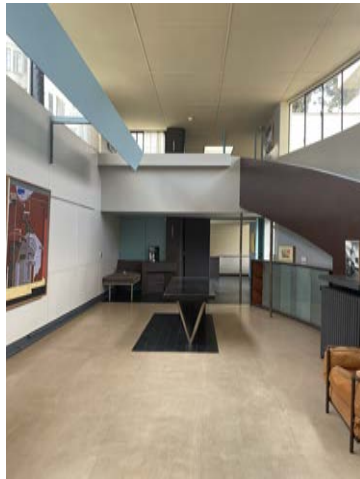
この日はル・コルビュジェの建築を巡ってきました。

□サヴォワ邸



△まずはサヴォワ邸に行ってきました！パリの中心部から電車で1時間ほどのポワシー駅で降りて、そこから10分ほどバスに乗って到着です。毎日利用する地下鉄ではなく、乗り慣れない電車で乗車時間も長かったのですが、なんだかプチ旅行をしているような気分でワクワクしました。佇まいがとても凛々しく、周辺の穏やかな雰囲気も相まって感動しました。受付の方が流暢な日本語で説明して下さったことにも感謝しました。念願のピロティや屋上庭園も体験でき、色々なティールまで見ることができて大満足です◎

□ラ・ロッシュ邸



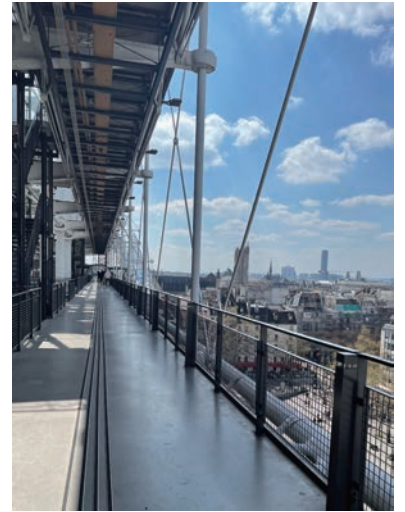
△サヴォワ邸の後はパリ市内に戻ってきて、ラ・ロッシュ邸を訪れました。ピロティは小さな広場のようになっていて、歩くのが楽しかったです。室内にはたくさんの動線があって、ひとつの住宅であることを忘れてしまうようでした。特にスロープの曲線が綺麗で、勾配は少し急でしたが水平の連続窓 コルビュジェの椅子も何点もあり、実際に座ることもできました！

□コルビュジェのアトリエ



△コルビュジェが実際に晩年を過ごしていた空間は、なんとなくですが愛着を持って過ごされていたのが伝わってきて、暖かい気持ちになりました。6階建ての屋上はとても開放的でコンパクトなので、パリの街並みを眺めながらも落ち着ける、素敵な空間でした。

□ポンピドゥーセンター/レンゾ・ピアノ+リチャード・ロジャース



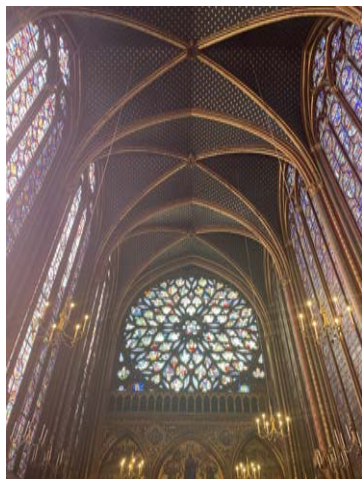
△1977年に完成した美術館で、通常の建物では内側にしまわれたり隠されたりする設備機器や配管を、ポップなカラーで全面に表出しています。歴史ある石造りの建物ばかりの街並みからいきなり現れてそのギャップにまず驚きました。格好良さとかわいらしさどちらもあって、半世紀も前につくられた建物とは思えないほど古くさがなく洗練された印象です。室内でもファサードと同じ材料が使われていて楽しい空間になっていました。エスカレーターやデッキからはパリの風景も一望でき、歩いている時間がとても楽しかったです。

□建築博物館



△エッフェル塔の近くにあるこの博物館では、有名な建築物の模型や図面などが保管されています。歴史的な建物は石や石膏でつくられており彫刻のように繊細でした。企画展として、現在修復作業が行われているノートルダム大聖堂に関する展示がされていました。また、今回見に行けなかったユニテ・ダビタシオンの1/1があり、そこでは室内を見ることができました！

□サントシャペル



△ここにはキリストの聖遺物である茨の冠が保管されていたため、教会そのものが宝箱のようにつくられました。壁一面がステンドグラスでできた空間に夕陽が差し込んでとても綺麗でした。

□オペラ座



△こちらにも内装がとても豪華な建物です。どこも華やかすぎて眩しかった記憶があります。オペラを鑑賞しない人でもドレスアップをして記念写真を撮っていました。

□ケブランリ美術館 / ジャン・ヌーヴェル



△歩道と美術館の間に建てられた大きなガラスの壁が特徴的な美術館です。広場には木々がたくさん植えられ、まるで森のようです。前面道路は車通りも多いのですが、この緩衝帯によって落ち着いて美術館へ向かうことができるアプローチとなっています。

□カルティエ財団現代美術館 / ジャン・ヌーヴェル



△こちらでは広場にカフェとテラスがあって食事もできます。また、建物に沿って歩道があるため、美術館の様子を伺うこともできます。作品を外からも中からも見ることができ、両者の境界が曖昧になることで心地よく開放的な場所になっていました。

□Patrick Seguin Paris | London



△ジャンプルーヴェ設計のギャラリーで、家具の展示がされています。パリのバスティーユ地区にあり、周辺はマンションが多く、お店も点在していて活気のある街です。外観は周辺の住宅に溶け込んでいて室内の様子は見えません。小さな表札だけが目印のため、知らないと通り過ぎてしまいそうでした。扉を開けると開放的な空間にたくさんの家具(主にジャンプルーヴェの作品)が展示されています。天窗からの光に照らされてどれも心地よく、色々なシーンが想像させられる素敵な空間でした。

□日常でみつけたこと



△フランスで満開の桜を見ることができました！



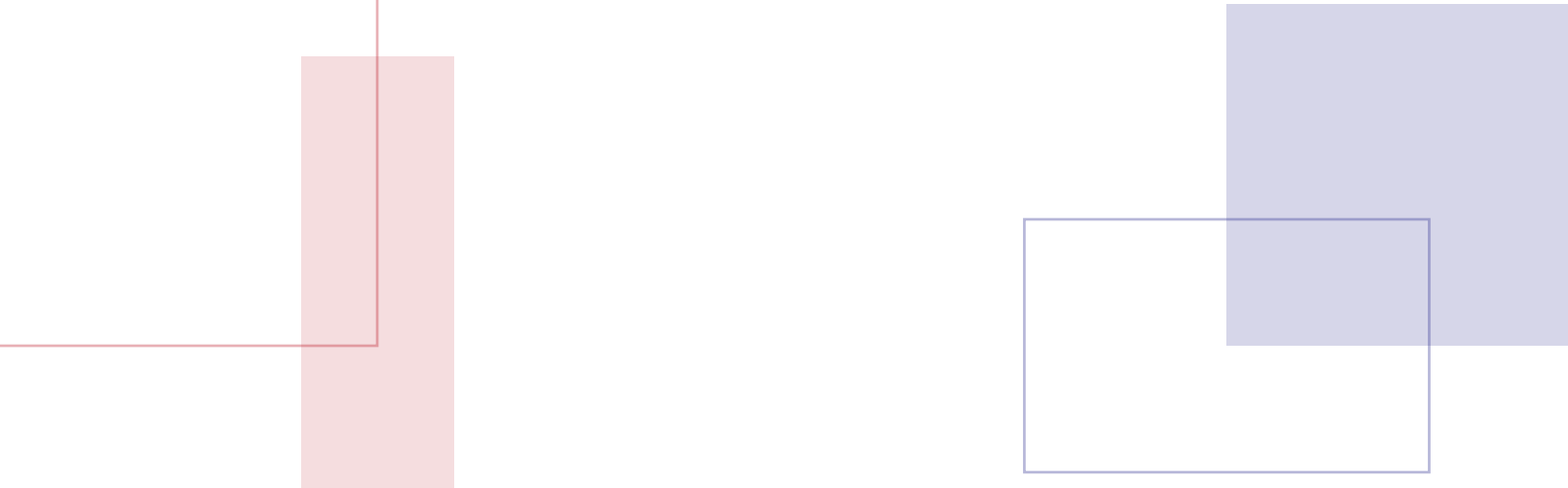
△ストライキでゴミの回収がストップしているようで、このような光景をよく目にしました。



△広場のようす：ひとりでも二人以上でも好きなようにのびのびとしている姿はとても素敵でした



△どのお店にもテラス席があって、賑わいをみせていました。公共的な場所での振る舞いが上手です。



おわりに

初めての海外旅行だったこともあり、楽しみな気持ちよりも不安な気持ちが大きかったように思います。フランスについてから数日間は、電車に乗ったりご飯を食べたりといった普段何気なくこなせている小さなことにも苦勞してしまっ、毎日とてもぐったりしていました。ただ、建築をみているときはすごく落ち着けて、日本にいるときと同じような感覚がしてとても気が楽になりました。徐々に現地での生活にも慣れてきて、目当ての建築に辿り着くまでの道中も楽しく過ごせるようになり、気づいた頃には帰国が寂しくなるほど充実した日々になっていました。今回の旅行を通して改めて建築の影響力や迫力を肌身で感じ、直接目でみることの大切さと楽しさを再認識できました。

卒業制作では辛い時期も長かったのですが、たくさんの人たちに支えてもらったおかげでこのような経験ができました。この旅行をきっかけにいろいろな街や建築を訪れたいという気持ちがより一層強くなったので、今回行けなかったところや好きな建築をたくさん見に行きたいと思います。改めて、今回はこのような貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。

日本工業大学 高宮 弥

